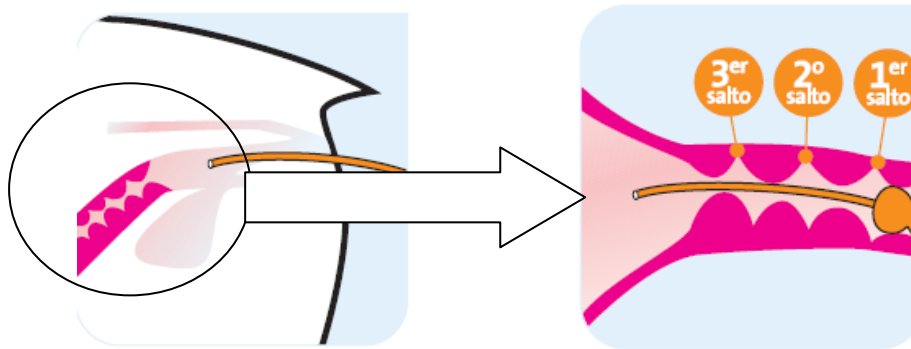


PCAI カテーテル挿入のポイント

・種付けのタイミングは、従来の AI と同じです。

・精液注入時の雄の接触は不要です。

母豚の子宮頸管は、雄の接触やカテーテル挿入の刺激で緊張して硬くなり、数分後に緩みます。PCAI では、この緊張⇒緩みが重要で、母豚がリラックス(頸管が弛緩)していないと PCAI の内筒は挿入できません。



母豚が緊張すると、頸管が締まってしまうため内筒を入れることが出来ない。ここで、無理に内筒を押しこむと子宮頸管を傷つけることがあるので要注意！内筒が子宮頸管を通過する際、コブを越えていく感触が伝わってくる。頸管を抜けるとこの抵抗が無くなるので、子宮内に到達したことが分かる。

マガプラスSは、ここが違う！

非常に柔軟性があり、折れにくいので頸管内壁を傷つけにくいのが特徴です。



←柔軟性があり、内空が潰れたり、折れ曲がったりしない=安全。

内空が潰れ折れ曲がった角の尖り → が子宮を傷つける危険がある。



・5頭を1グループとし、まずはガイドカテーテルを挿入し、5頭目が挿入し終わったら、1頭目に戻り、内筒を挿入して精液を即注入する。

※ 5頭分のガイドカテーテル挿入が終わるころには、最初の1頭目は、頸管の緊張が解けて内筒の挿入が容易になります。この方法を5-1(ファイブ イワツ)といいます。

※ 内筒がうまく入らないときは無理せず、後回しにして他の母豚の注入を行ってから再トライ。注) 経産豚でも5%程度はPCAIが出来ない個体が存在します。

3回程度トライしてダメな個体は、ガイドカテーテルに精液パックをそのまま接続し、従来法でのAIに切り替えましょう。また、初産豚への使用には、慣れが必要なので無理にPCAIを行わず、従来法での注入を行うことをお勧めします。

【輸入販売元】



グローバルピッグファーム株式会社